Ⅳ　成果と課題

1　研究の成果

○　課題設定の工夫の実現

本研究テーマでは２年目になり，課題設定の工夫は長年取り組んできた。１・２年生はこれまでの研究の蓄積，３・４年生は副読本，５・６年生は教科書を生かしながら，新本オリジナルを確立することができた。どの学年もおさえるべき学習内容を網羅しつつ，課題設定であるゴールを工夫することで，児童の意欲は高まってきていることを感じる。

来年度は教科書が変更される年にあたる。特に５年生については，教科書会社が変わるために学習内容や順番が大きく変更される可能性がある。これまでの蓄積を生かしながら，今後も課題設定の工夫に取り組んでいくことで，児童の主体的な学びが確立できるようにしていきたい。

○　環境面でのブラッシュアップ

本年度は環境面でもブラッシュアップすることができた。掲示物の精選からはじまり，英語放送では全学年の児童が参加することができた。また，英語朝礼は学年発表だけでなく，発達段階に応じて低・中・高学年に分かれてする時もあった。今まであるものを見直すことで，児童が必然的に英語に触れる機会が増え，少しずつ異文化理解に興味をもちはじめたと感じている。

2　今後の課題

○　ゴールの姿の明確化

今年度は特に「ゴールの姿の明確化」に課題が残った。これは，「研究仮説2　児童に到達してほしい姿を示し，課題においてどのような姿を目指すのかを，児童と教師の双方が理解しながら活動することで，『学びに向かう力，人間性等』を高めることができるだろう。」の「児童に到達してほしい姿」に関連している。

今年度の実践では，授業のゴールの姿を意識した授業展開が多くあった。ゴールを意識することは教師も児童も見通しをもつことができる。しかし，外国語は言語であり言語の獲得には個人差がある。小学校の段階でどこまでがゴールの姿であるのかはっきりしていない部分があり，小学校段階でのゴールの姿を教員間で改めて共通認識をはかることが大切ではないかと考える。本校は各担任が外国語活動や外国語科の授業を担当している特性がある。だからこそ，誰でもどの学年でも日々の授業でゴールの姿を意識して，その姿に近づくために今どのような指導が必要か改めて逆算して考えていく必要があると感じた。